

図書ニュース

図書ニュース

第5号

2006. 12. 1

大阪府立北野高校 図書部

来週からいよいよ後期中間考査が始まりますね。「少しでも高得点をとるため全力を尽くす人」、「マイペースを崩さず、普段どおりの学習生活でのぞむ人」、「あとがないためプレッシャーと戦いながらの毎日を送る人（3年生は学年末のプレッシャーか?）」、「あきらめの境地に達し、悟りをひらいた人」など様々だと思います。かく言う私も定期考査には何度も泣かされた北野生の一人です。私の場合クラブをするためだけに学校に通っていただけから。1・2年時の学習態度や考査にのぞむ姿勢を思い起こすと、よく進級できたと切実に感じます。でもクラブを引退してからはそれなりに勉強したので、3年時の学年末の恐怖は感じませんでしたけどね（3年生ガンバレ〜）。…ということでしばらくは読書をするような時間は持てないかもしれませんが、考査が終わればちょっと一息、好きな人はもちろんのこと、普段あまり読書をしない人も本を開いて見てはどうでしょうか。新しい世界を発見するかもしれませんよ。

さて、今回の図書ニュースの特集は

「北野高校野球部の部員が紹介する一押しの本」

です。

『宿題ひきうけ株式会社』著：古田足日 理論社

内容 みんなを困らせる宿題を5年3組の6人組が本人のかわりにやってくれる「宿題ひきうけ株式会社」をつくる。

感想 なぜこの世に勉強があるのかということを再考し、それを確認できました。そして学校の様々な意味での大切さを知りました。

『流学日記』著：岩本悠 幻冬舎文庫

内容 ただ流されていく平凡な毎日から飛び出した学生がおくる、矛盾だらけの自分と世界を旅する痛快な日々とは!? 20歳の感性とエネルギーが爆発した、若者の新しい旅のバイブル!!

『カンガルー・ノート』著：安倍公房 新潮社

内容 ある日突然、脛からかいわれ大根が生えてきた男が、病院からも見放され行き着く先は……

感想 非現実的な情景も絶妙な描写で容易に想像できる。死とは何か、現実・非現実とは何かを考えさせられた。

『雨鱒の川』著：川上健一 集英社

内容 母と二人暮らしの小学三年生の心平は川で魚を捕ることと、絵を描くことにしか興味がない。そんな心平には心の通い合う小百合という少女がいた。小百合は耳が不自由で言葉を発せなかったが、心平にだけはわかるのだった。心平の絵が国際的な児童画展で入選したことで心平は上京する。10年後、18歳になった心平は村に帰り、小百合の家の造り酒屋で勤め始めるが…。

『バッテリー』著：あさのあつこ 角川文庫

内容 中学生の巧が友人の豪たちとともに野球を通じて成長していく物語。
感想 ただの野球物語ではなく、中学生の複雑な心情が上手に表現されている。周りの人間に興味を持たなかった巧が少しずつ周囲と打ち解けていく様子がよかった。
一言 『バッテリー』の一押しは計三人いました。

『生協の白石さん』著：白石昌則 講談社

内容 東京農工大生協でかわされた「ひとことカード」の交流記録。まじめで、おかしくて、癒されるやり取り。
感想 とても笑えます。ドラクエネタとか…。

『ダヴィンチ・コード』著：ダン＝ブラウン 角川書店

感想 読み出したら止まりませんでした。本を読まない人でも読める本です。
感想 サプライズのオンパレードだった。ゴリ押しできるくらいおもしろかった。

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』著：山田真哉 光文社新書

内容 身近な疑問に対する答えが書かれている会計学についての本
感想 会計学という難しそうなイメージとは違い、社会での身近な出来事を例として書かれているので、とてもわかりやすく、読めば読むほど本に吸い込まれていくようだった。

『美人の日本語』 山下景子 幻冬舎

内容 普段使っていることばの語源や裏話など。
感想 身近なことばが多く楽しい一冊です。

『ぼくのおじさん』著：北杜夫 新潮文庫

内容 お小遣いはくれない、宿題も見えてくれない、スポーツもさっぱりダメという著者のおじさん。人に自慢できることなど何一つなく、やることなすこと的はずれ。著者が作文の懸賞に入選したことにより、おじさんと一緒にハワイに行くことになって……。
感想 著者の子どものころの話で、おじさんの行動が普通の人と違っておもしろい。僕はこんなおじさんを持ちたくないと思った。

『海辺のカフカ』著：村上春樹 新潮社

内容 15歳の少年は二度と戻らない旅に出る。出会ったのは、30年前のヒットソング、夏の海辺の絵、15歳の美しい少女。一方では猫と交流ができる老人ナカタさんの物語。ホシノ少年に助けられながら旅を続ける。世界と世界を結ぶ闇。二人を導くキーワードとは？

感想 むちゃおもしろい。

『手紙』著：東野圭吾 文春文庫

内容 強盗殺人犯の罪で服役中の兄剛志。弟直貴のもとには月に一度、獄中から手紙が届く。直貴が幸せをつかもうとするたびに「強盗殺人犯の弟」という運命が立ちはだかる……。

『陽気なギャングが地球を回す』著：伊坂幸太郎 祥伝社

内容 一風変わった四人組のギャングが、強盗した金を奪い取られた敵に立ち向かって行く。

『王妃の館』著：浅田次郎 集英社

内容 パリ十日間 150万円の「光」ツアーとパリ十日間 20万円の「影」ツアー、この二つを同時に金に困った旅行会社が企画した。そしてこの二つのツアーが交わることにより何かがおこる……。

感想 まず、ツアーがあまりにも大胆な企画だったので思わず笑ってしまった。とても濃い登場人物たちがおこす騒動がおもしろく、ストーリーも感動的で、ちょっと変わった感じがする本でした。堅すぎず、軽すぎずの本でとても読みやすい一冊です。

『ナイフ』著：重松清 新潮社

内容 主に「いじめ」についての短編の物語が五つ書かれている。生徒どうしのいじめの話やいじめられている子どもの親からの目線で書かれた話など。

感想 最近、いじめによる自殺が多発している。この本を読んでみたが、改めていじめられる側の苦しみ、いじめている側の言い分などがわかった。とても重い内容なので、読んでいてしんどかったけれど、「いじめ」について再認識できる一冊です。

『終戦のローレライ』著：福井晴敏 講談社

内容 日本が第二次世界大戦を戦っている時代の話。日本は滅亡に瀕していた。国家の運命をかけた特殊兵器、潜水艦「ローレライ」の中で繰り広げられる男たちの熱い物語。

感想 登場人物たちの心情やそのときの情景が想像でき、「男」たちの勇姿に感動した。